

家高判

進上東寺

公文所殿

〔東寺百合古文書〕

新見莊領家職御讓位段錢折紙事認置候、早々可被召候、恐々謹言、

十月一日

齋藤左近將監基敦花押

東寺雜掌

進

〔東寺百合古文書〕

御讓位段錢配付

どうじ
十二、五、
正五、

御讓位要脚段錢事、壹段別百拾參文宛來十三日以前可有究濟、若有難澁也、可令入部譴責使者也、

寛正五年十二月八日

從眞花押

正應花押

どうじ

〔蔭涼軒日錄〕寛正五年五月廿日、天龍臨川三會就段錢、以前御免許之折紙有之、當時定有其例、然同前可有御免許歟之由申之、但寺奉行以支證致披露、可被任理運乎之由申之、仍天龍臨川三會奉行飯尾兵衛大夫、披露之、與伊勢守可評論之由被仰出云々、八月十五日、備前新田莊寺庵段錢、自守護方被懸之事、以先規御免除御奉書、遣于飯尾兵衛大夫也、津掃部頭支證奉懸于御目、仍御免除御奉書之事、於殿中命于飯尾兵衛大夫也、十月三日、新田莊三箇保讓位段錢、定光請狀奉懸于御目也、御小袖三重益段子高檀紙杉原各十帖、自天龍寺獻之、